

平成24年6月29日

明治・大正・昭和、そして平成と一世紀に渡り愛された「ひらかた大菊人形」

今秋「ひらかたの秋 菊人形祭」を記念開催

ひらかたパーク開園100周年記念

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）が経営する遊園地「ひらかたパーク」（略称：ひらパー、所在地：大阪府枚方市枚方公園町）では、ひらかたパーク開園100周年を記念して、菊人形イベント『ひらかたの秋 菊人形祭 時代を変えた男 平清盛と源頼朝』を開催いたします。

明治43（1910）年、京阪電車が大阪・天満橋～京都・五条間で鉄道営業を開始した年に、当時の京阪電車 香里園駅（当時の駅名は香里）東側の丘陵地に造成された香里遊園地において開催した菊人形展を起源とし、秋の風物詩として好評を博した「ひらかた大菊人形」ですが、菊付けをする菊師や人形菊の栽培者など、制作に係わる者の高齢化と後継者不足のため、平成17年の開催をもって惜しまれながら96年の歴史に幕を下ろしました。

閉幕後も多くのお客さまの『ひらかた大菊人形』を懐かしむ声を頂戴し、平成22年に限定復活開催したことに続き、今秋、ひらかたパークの開園100周年を記念して、原点である菊人形展を記念開催いたします。

100年の歴史を誇る伝統的な制作手法の菊人形14体に、新たにフラワートピアリーの制作技術を用いて制作されるトピアリー菊人形16体を加え、衣装人形1体を含む計31体で織りなす全13シーン（予定）で、かつての規模には及ばないものの色褪せることのない匠の技と新たな技法により、お客さまに菊人形の素晴らしさをお届けしてまいります。

開催概要等につきましては別紙のとおりです。



平成22年のひらかた大菊人形「龍馬伝」の一場面

(別紙)

「ひらかたの秋 菊人形祭 時代を変えた男 平清盛と源頼朝」開催概要

〔期間〕平成24年10月6日(土)～11月25日(日) 期間中休園日なし

〔時間〕平日10時～17時、土日祝10時～18時

〔場所〕イベントホール、イベントホールの一部

〔入館料〕おとな400円、こども(3歳～小学生)200円

別途入園料必要(おとな1,300円、こども700円)

〔内容〕全13シーン・菊人形14体、トピアリー菊人形16体、衣裳人形1体を展示します(予定)。記念撮影用の菊人形3体を除く。

ひらかた大菊人形

『ひらかた大菊人形』は、明治43(1910)年、京阪電車が大阪・天満橋～京都・五条の間で鉄道営業を開始した年に、京阪電車 香里園駅の東側の丘陵地に造成された香里遊園地において開催した菊人形展を起源としています。大正元年(第三回)から開催地を枚方に移し、戦争の影響による2年間の開催中止を除き、その伝統と技術は絶えることなく受け継がれてきました。しかしながら、菊付けをする菊師や人形菊の栽培者など、制作に係わる者の高齢化と後継者不足のため、それまでの規模と内容を維持することが困難となり、平成17年の開催を最後に止む無く閉幕いたしました。

トピアリー菊人形

平成17年の「ひらかた大菊人形」閉幕後に、秋の新たなフラワーイベント「オータムフラワーガーデンショウ」において展示した「フラワートピアリー」の制作技術を用いる菊人形。

従来の菊人形、トピアリー菊人形ともに根のついた菊を使い、花を咲かせながら表情を変えていく点では共通ですが、従来の菊人形は人形菊と呼ばれる小菊を畑からひき、数株をひとつにして根に水苔を巻いたものを胴殻(人形の骨組)に挿して、着物などの形を作る手法(菊付け)であるのに対し、トピアリー菊人形は人形の骨組に鉢植えで栽培する小菊をひと夏かけて誘引し、育てながら作る点が異なります。

現在、京阪グループの京阪園芸の指導の下、ひらかたパークの園芸担当者が主体となり制作をおこなっています。

以上